

「都心の生物 博物画と観察録」

中野敬一著 中山れい子 編集・解説

本の泉社, ISBN978-4-7807-1237-7 C0045

2015年7月31日発行, B5判80頁

定価1800円+税

著者は港区内の生物、特に有害生物について、これまで日本衛生動物学会、日本ペストロジー学会、都市有害生物管理学会、日本環境動物昆虫学会などを中心に学術論文や学会報告をしていることから、我々の業界でも名前を知らない人はいない。その著者が、これまでの主要な研究成果を中心に1冊の書籍としてまとめた。タイトルにある博物画は、すべて著者によって描かれたものであり、その絵の才能を見ることもできる。都心の生物とヒトとのかかわりはペストコントロール業者にも有用な内容である。

本書には、公園で発生する害虫や植物、街路樹、緑地と雑草、都市害虫、都市ビルの装置から発生する生物などが含まれている。著者が「私にとっての虫とは単なる趣味や研究対象ではなく、精神構造の一部を占める重要な要素」と述べている。特に、2014年デング熱で注目されるようになったヒトスジシマカについてはもっとも多くのページが割り当てられている。この年のデング熱の流行後、蚊類の調査の需要が急激に高まっており、生息場所やドライアイストラップなどが写真付で解説されているため、だれにでも役立つ。また、デング熱の流行時、またその後の調査でもあまり注目されていなかったが、重要な調査方法のひとつ、オビトラップを用いたヤブカ類の調査についても、本書はトラップのカラー写真とともに、その方法もわかりやすく解説している。また雨水マスはヒトスジシマカの発生源として注目されるようになった。雨水マスは蚊類の重要な発生源であることはこれまでに数多くの報告があるが、本書でも取り上げられている。しかし、本書では蚊以外の雨水マス内の生物相についてわかりやすくまとめられている。

一方、本書には著者の研究に対する考え方や姿勢が書かれている。著者は「論文を書きたい欲求が常にあった」と述べているが、時間や設備などの制限が多いその研究環境は、業界の若手研究者にも共通する部分が多く、研究の取り組み方は大いに参考になる。本書を読み進めると、だれでも研究を始めたいくなることは勿論、その成果は大会発表のみではなく、学術雑誌に記録として残したいという気持ちになる。そういう意味でも各人購入して一読することをお勧めしたい。

なお、本書はamazonでの購入のみとなっており、一般の本屋さんでは手に入らない。

(評者 谷川力)